

## 編集のことば

この記念論文集を編集するにあたって、「戦後」を共通テーマとし、戦後の思想的、社会的諸問題を解明しようとした。戦争を境として大きな変動がおこり、この新しい事態をどう受けとめ、これにどう対処するかは、今日の火急の基本的な問題だからである。共同研究であることを念じたが、急のこともあったので、いささか有機的関連に欠けるうらみがある。それでも、各方面から多角的にこの共通主題に切りこむことによって、戦後の日本像、世界像を多少は描きえたつもりである。自由テーマの論文を第二部、第三部に配した。第二部は経済学および商業学のもの、第三部は法学および人文諸学のものとした。いずれも、それぞれの分野における新開拓を目ざしたものである。

収められた諸論は全部で三十一篇、きわめて多彩で、本学法経学部の内容をしめし、三十五年の年輪を告げるに足るものである。この論集をつつがなく刊行にまで漕ぎつけた今、編集委員として喜びをかくしえない。学長はじめ大学当局の厚い理解と援助にたいする、また執筆の諸先生の積極的な協力にたいする感謝で一ぱいである。われわれは想を新たにし、つぎの論集を目ざして研究にはげみたい。

昭和三十八年十一月六日

神奈川大学  
創立三五周年  
記念論文集編集委員会